大里村青年議会

忠魂碑

元帥陸軍大將子爵川村景明書

回想録

大里村青年議会と
忠魂碑建立
回想録

まえがき

昭和二六年、敗戦から祖国復興を目指して五年有余が過ぎ、農村はひたすら食糧増産に明け暮れ力強く前進しつつありました。

この厳しい世相のなかで青年の政治意識の高揚と村議会への意志の反映、農村改革と産業開発研究等を目的とした青年議会を設立したのは、当時の青年団長柳沢昭三氏を中心とした幹部の皆さんでありました。その郷土愛に燃えた情熱は想像以上のものがあり、深い感銘を覚えたものでした。

設立された青年議会は、開会当初、議会の在り方について単に模擬議会となすべきかの是非論のなかで、行動をもって取り組むべき課題として、忠魂碑の再建と国立長野療養所菱野分院の国立東京第一病院小諸分院（陸軍軍医学校）への統合の二件を全員一致で決定いたしました。その後、強力な活動を展開した結果、二つの課題はそれぞれ実現することが出来ました。

今回、長い間の懸案事項でありました、忠魂碑建立に関わる部分についてまとめることが出来ましたのでご報告申し上げます。

目次

まえがき

待望の講和会議を目前に青年会議結成……一
大里村青年議会各担当委員氏名
大里村青年議会規約
新議長の抱負
青年議会の歩み
今後の運営について世論調査
村民の声建設箱　青年議会で設置
各政党・労組青年部との懇談会のお知らせ
各政党・労組青年部対懇談会開催さる

忠魂碑建立に立ち上がった青年議会……九
衆議一致
見事に失敗
トラックで移動《二日目》
「ヨイトマケヨイトマケ」《三日目》
雪の中を《四日目》
搬入完了《五日目》
ついに建立《九月》

平和の礎　戦没者氏名……一四

資料　信濃毎日新聞《昭和二十八年二月十一日》……一九

あとがき

昭和二六年九月一〇日発行
大里村公民館報より

待望の講和会議を目前に青年議会結成
村民各位に今後の支援を願う

去る二月、青年会議設立案が提出されて以後、村当局村民各位の理解ある御協力と関係各方面の御配慮と御教導を得て平穏無事祈る二百十日前日、村長さんはじめ県会議員塩川清兵衛氏ほか多数の来賓皆様のご臨席を賜り大里村公民館にこの声を上げました。

議会の目的についてはすでに各機関を通じてお知らしたとおりでありますが、今後残された問題は本議会がいかに村民各位の要望に応え、期待に添い得る活動をするかでありますが、なにぶんにも前例がない団体だけに前途に困難な問題が生じることを予期して、議員諸氏は目的達成のため懸命な努力といかなる犠牲をも惜しまぬ強固な意志と覚悟を持って、その運営に専念していただきたいと思います。

また、村民各位には本議会育成・目的達成のため、大きくは大里村の明るい文化村としての反映のため、なお一層のご教導とご鞭撻を重ねてお願い致します。

大里村青年団長　柳沢昭三

大里村青年議会各担当委員氏名

（議員定数は村会と同数の十六名とする）

一．顧問　大里村長　漆原勝衛
　　助役　清水立夫
　　村議会議長　土屋七郎兵衛
一．議長　饗場幸一郎
一．副議長　尾沼誠
一．総務委員会委員長　尾沼誠
　　委員　中込利雄
　　委員　原田末男
　　委員　白鳥昭夫
　　委員　荻原英一
　　委員　岡村功
一．文教委員会委員長　中込利雄
　　委員　相場高雄
　　委員　饗場秀之助
　　委員　相場栄
　　委員　小林勝義

委員　森住輝雄

一．経済委員会委員長　荻原英一

委員　原田輝身

委員　原田末男

委員　土屋正光

委員　岡村功

委員　岡村隆

一．厚生委員会委員長　原田輝身

委員　土屋正光

委員　白鳥昭夫

委員　岡村隆

委員　尾沼誠

委員　漆原新市

一．情報委員会委員長　小林勝義

委員　森住輝雄

委員　相場栄

委員　漆原新市

委員　相場高雄

委員　饗場秀之助

一．特別委員　柳沢昭三

委員　平井和市

委員　花岡一登

大里村青年議会規約

第一章　総則

第一条　本議会は大里村青年議会と称し事務所は大里村役場内に置く

第二条　本議会は左の事項を以て目的とする

一．民主主義に徹したる議会研究

二．村議会はじめ各機関に青年の総意を反映する

三．特に青年に関する社会問題研究討議

四．各種青年団体との連絡融和

五．農村改革と産業開発研究

第三条　本議会の議員たる資格左の如し

本村在住一カ年以上の満二〇歳～三〇歳までの青年男女より定員一六名を選出する。

第二章　会議並構成

第四条　本議会を通常議会と臨時議会とに分かち通常議会は隔月一回臨時議会は必要と看做される場合開催する。

第五条　本議会議員を左の構成に分つ

議長　一名

副議長　一名

総務委員　六名
文教委員　六名
経済委員　六名
厚生委員　六名
情報委員　六名

第六条　本議会の議長及び副議長は議員の互選とし各委員長一名を置く。議長は議会の議長となり副議長は議長を補佐し議長に事故ある時はこれを代理する。各委員長は委員会を統轄し本議会の運営に当たる。

第七条　本議会の召集は議長が当たり、各委員会は、委員長がこれを召集する。第八条　本議会議員の任期は二年とし議員に欠員ある時はこれを補充する。補充したる議員の任期は前任者の残任期間とする。

第九条　本議会は議員の半数以上の出席を要し議決は出席議員の三分の二以上の賛意を必要とする。

第一〇条　本議会は大里村公民館において開会するを原則とする。但し各分館を巡回することも得る。

第三章　会計其の他

第一一条　本議会会計は大里村公民館経費よりこれを歳出する。

第一二条　本議会は議会の議決により顧問若干名を設置する事を得る。

第一三条　本議会の議決により特別委員若干名（青年団側）を設置することを得る。

附　則

第一四条　本議会規約の変更は議員定数の三分の二以上の議決を得て之を行う

第一五条　本議会規約は昭和二六年九月一日より之を実施する。

一、若さ燃える地域のために意気たかく
青年議会設立を見る

一、我が村を住み良き里となさんため
すくうむくんで決意あらたに

一、戰に敗れし国の青年よ
なすべき事はやるの如しぞ

昭和二六年九月発行
大里村公民館報より

文化農村建設
新議長の抱負

時代の要求と青年の情熱並びに村当局のご支援により青年議会結成式が九月一日行われ浅学不才な私が議長たるの重責を負わされました。

つきましては私の所見の一片を申し上げて、村民各位は基より、とりわけ青年諸兄のご批判を乞うものであります。

青年議会？　当村史以来最初であり、また、郡下にてもトップとのこととて、その本質面と運営面とで一人苦慮いたしておるものでありますが、我々はあくまで農村の生きる理想と情熱を持つ青年であり、全村の青年を基盤としたところの議会であるとの自覚のもと、青年の結束と人間的な和と友愛により、青年個々の向上から、農家経済の充実を期し、大里村経済の万全を期し、即文化農村への完結をも期することが出来ると思います。

かくの如き努力による文化向上こそ、我々青年の理想とするものであり、また、情熱と若さを持つ青年として当然なすべき事と存じます。

農家経済充足の手段として、種々ありましょうが、個々農家はもとより郷土特有の産業面と販路をもつ、冬期間副業に思いを致し之が開発研究によって農村恐慌なる嵐に対しても万全なる経済体制を整えるべきでありましょう。

経済自立を願う我々にとって民主政治こそ識る必要があり、究明研究することこそ青年にとって不可欠で之が研究討議によって社会意識の高揚と自己批判ともなって人間性の確立も期待し得るものと存じます。

ここに全村青年の意志の交流をはかり青年議会が遊離することなく、常に一本のロープの如く手を携えて、我々が理想とする個々の確立と郷土の近代化に心致して、さらに世界観への意志向上にも努めて、講和条約後の独立日本のためにも貢献ならんとするのが、我々の念願と致すものであります。

ここに心から皆様の御協力をお願い申し上げ私の御挨拶と致します。

青年議会議長　饗場幸一郎

青年議会の歩み

昭和二七年二月一〇日発行
大里村公民館報より

社会情勢の把握と時勢の先進を目指し、常に堅実に歩む青年議会は設立半歳、関係各位の誠意あるご支援と村民各位のご理解のもと、着々目的達成に日夜精励致しております。ここに設立以来今日に至る歩みの概略をご報告申し上げます。

対外的問題

一．村議会の傍聴

我々青年議会は民主的議会政治の研究の目的に従い村議会を傍聴し、民主的な議会運営と議員の議会態度を体得いたし、今後の運営に供す。

一．公民館役員との懇談会の実施

青年議会は各機関の青年の総意を反映するという目的に従い、公民館役員との懇談会を実施した。

時たま有名無実になりがちな公民館運動について、我々青年としての考え方、また、公民館役員の考え方につき意見の交換を行い、計画問題なりとも、実際村民の生活面に即応し、社会的水準の向上のために、実践具体化することが最も肝要であるとの結論に達する。

一．政党立会演説会の実施

青年議会は社会問題の研究目的として、政党立会演説会を実施した。

米麦統制撤廃後の農村経済の問題、また、独立後の再軍備問題と現下の二大問題について政党及び実業人の立場に於いて、意見の発表により米麦の実態、消費量と生産不足の現況に於いて、無謀無計画極まる統制撤廃は、経済状況の急進せる現段階には、社会的騒乱と経済の一方的な破壊である。

また、独立後の再軍備については、明確なる国民憲法の尊重の上に立って国外自衛力の強化の面で進むべきであり、外敵に対抗すべきような再軍備編成には絶対反対する。我々は常に時勢の推移に後退することにより前進しなければならない。

一．戦没者慰霊碑建設について

農村改革の目的として時たまなおざりになって路傍に横たわり子供の足下となっている忠魂碑を再建し、戦没者の霊を慰め永遠に祈りを捧げることが、故人に対しても遺族に対しても後に残された我々の務めであるとの認識に立って、この建立について村当局に要請する。

他に青年議会組織の充実について、現在審議実践しつつあります。

総務委員会　尾沼誠

昭和二七年六月一日発行
大里村公民館報より

青年議会
今後の運営について世論調査

青年議会の運営研究途上にあります我々が何とかして村民皆様に親しまれる議会となり得るよう精進いたしておりますが、今度皆様より与論を拝聴して運営の糧とするため、全村中六六名の人たちより無記名でご意見を提出していただきました。ここに館報を通じ集計表を発表申し上げます。

なお、御投書くださいました皆様方には御多忙中お手を煩わせ、忌憚のない御意見をお寄せくださいましたことを、紙面を通じ厚く御礼申し上げる次第であります。

記

一．青年議会の存在についてどうお考えですかお聞かせください。

一．存在を可とするもの　三二
二．存在を不必要とするもの　二
三．ある程度関心を持っている。　一

二．あくまで青年議会の資格で村政に参画すべきか

一．参画を可とするもの　二〇
二．参画は行き過ぎであるとするもの　九
三．ある程度参画を可とするもの　七
四．第三者の立場に於いて批判する程度とするもの　二

三．青年の立場に於いて種々審議研究機関であるべきか

一．可とするもの　二〇
二．否とするもの　無し
三．研究即実行に移すべきとするもの　七
四．研究し且つ当局に対し質疑申請して欲しいとするもの　一一

四．その他お感じになられる問題について

一．青年議会なるものを早く村民に認めてもらうよう努力すべきだとするもの　一二
二．さらに研究努力し文化的農村建設に、邁進してもらいたいとするもの　一一
三．研究しこれを青年層末端まで知らせて欲しいとするもの　一五

附記　各区投書成績

滝原　七七％　西原　七〇％　諸　七八％
菱野　七〇％　後平　七三％　平均　七三％

以上

情報委員　饗場秀之助

村民の声建設箱
青年議会で設置

この度、大里の明るい村建設を目的として各区公民館前に建設箱を設置し、常に皆様の与論をお聞かせ願うことになりました。お互い住み良い文化農村にするため、特に投書の際は良心をもって御協力下さるようお願い致します。

一．開箱は各月二〇日で自由ですが個人的なことは差し控えて下さい。

昭和二七年五月一〇日発行
大里村公民館報より

各政党・労組青年部との懇談会のお知らせ
主催　青年議会

来る五月一八日大里村公民館に於いて、各政党労組の青年部との懇談会を青年議会主催のもとに行いますから、皆様にはこの農繁多忙の折りではありますが、多数御出席の上よろしく意見の交換をされ、独立後の日本の諸問題について研究されることを望みます。

一．場　所　　大里村公民館
　　日　時　　五月一八日　午後一時

二．話　題　　独立後の青年の在り方

昭和二七年六月一日発行
大里村公民館報より

各政党・労組青年部対懇談会開催さる

さる五月一八日大里村公民館に於いて青年層を中心として、各政党・労組青年部との懇談会が行われた。

我々が視野を広くして社会状態を把握し広く文化の交流を成し、どうしたら最も完全に独立した日本の青年として貢献することが出来るか等を目的として、懇談をした。

出　席　者

改進党　高柳　越後
共産党　今村　塩田
社会党県連副青年部　関　四方　仁科

労政小諸支部　三浦
電産千曲分会　久保田

座談概略

一．各政党として常に考えておられる話題に対する見識発表
二．特異性を持つ青年の現在について及びこれに対し農村の立場よりの所見発表

話題　独立後の青年の在り方
一．農村生活保障制度・社会保障制度について
二．大里村の実態等の質問あり。これらについて特に詳細な座談
一．今後の農村対策の各政党の公約発表
二．特に公約を履行して貰いたい者の意見
三．農村青年として各政党及び労組に望む意見
四．政党青年として農村青年に望む意見等々

とかく堅苦しくなりがちなこういう会も尾沼副議長の名司会により、終始おだやかにまた熱心の中に政党を度外視し、各青年の立場に於いて今後ともお互い便達し合う旨約し午後六時散会した。

情報委員会　饗場秀之助

忠魂碑建立に立ち上がった青年議会

衆議一致

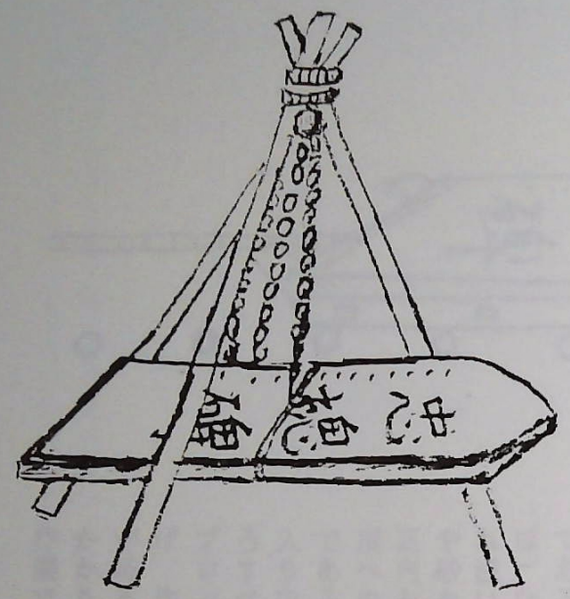
昭和二六年九月青年議会結成以来忠魂碑移転建設問題が議論され、その都度書面あるいは口頭をもって村当局に要請をして参りましたが、苦しい財政事情と近隣市町村にその動きがなく、そのうえ占領軍の軍政部が長野市に置かれており、これらに対する配慮もあって、積極的な対応がなされないまま推移しているのが実状であった。我々がその再建について早期実現を強く要望した理由として、青年議会議員自身もその大部分が戦列に参加し、内地外地の別はあっても厳しい軍隊生活の経験があり、出征時の滅私奉公の精神と任地での苦しい日々を過ごして終戦を迎え、生還することが出来たのだが、一方で我が身を犠牲にし勝つことを信じて故郷に無言の凱旋をした多くの先輩の氏名が刻まれ、その霊をまつる忠魂碑が路傍に倒れされ、そのうえを泥足であがる子供の遊び場となって泥土にまみれているのを見るに忍びなかったからである。

敗戦とはなりたるも同じ苦しみを味わい生き残った我々の責務として、忠魂碑建立の陳情を重ねて来たの

であるが、これ以上放置することは出来ないとの判断から、青年議会の名のもと全員出動して、議員の労力をもって奉仕し、予定地の金平山頂に搬送すべく、衆議一致したのが昭和二七年新春であった。

見事に失敗

月が変わって三月一四日積雪一〇センチのなか、かねて計画通り三脚を組みチェーンブロックを固定、原田木材店から借用した木材運搬用の橇に乗せ、馬力ならず牛力最高と前評判の高かった橋本豊見氏飼育の朝鮮牛に引かせるも、さすが総重量二トンは重く二度三度鞭をくれるも一寸も動かず、見事この計画は失敗して振り出しに戻り計画の立て直しであった。



行動が開始された以上後戻りは出来ない。その夕刻建設業界のトップにあった吉沢組（当時社長吉沢要氏）を訪れ内容を説明し協力をお願いしたところ、滝原出身者であること、吉沢さん自身も北支戦線に従軍し負傷して復員、現在傷痍軍人の身であること等をあげられ、快く承諾を得ることが出来た。

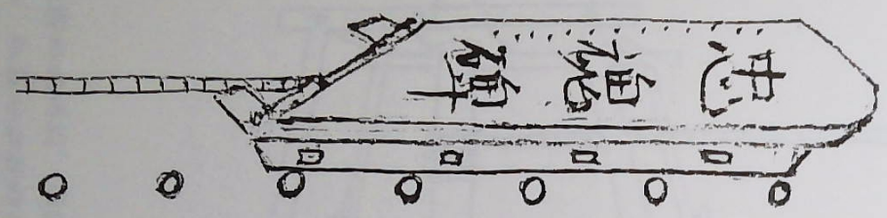
トラックで移動《二日目》

さっそく翌朝、吉沢さんがまわしてくれたトラックに碑をあげる作業である。全員出動の中、ワイヤーで三脚を組み二人一組になってチェーンブロックの冷たい鎖をジージーの音とともに絞る。一五センチ～二〇センチと揚がるが時間がかかり体力的にも大変である。五〇センチほど揚がったとき、びしびしと腹にも響く大音響とともに、重量に耐えきれず三脚の一本が結束部分から折れて、チェーンブロックが落下してしまった。

幸い作業をしていた議員に支障がなかったが、まともに身体のどこかにあたっていたとしたら一大惨事になるところであった。目に見えぬ霊魂が守ってくれたとして一同胸をなぜおろしつつ何か落ちつかぬまま昼食とする。

午後、破損の一本を交換して作業再開、今度は危険防止から落下することも予想して、斜めから鎖を絞るので重い。ボデーの高さにするのさえ時間がかかる。

皆手を真っ赤にしての二時間、慎重を期してやっと台上にあげることが出来た。出発である。



この頃、諸区では水道を各戸へ引き込む大工事がなされており、県道上田弥津線は所々掘削されてトラックの運送もままならず困難を極めた。軒下等に立てかけてある蚕座（桑っぽ）などを溝に入れ浅い所には小石や砂を入れながら、区内を通過して山頂への近距離地点である現北保育園入り口に到着。降ろすべくチェーンブロックをくみ上げ、作業にかかるが降ろすも時間がかかり根気の入る作業である。それでも降ろす方がはるかに楽で順調である。降ろし終えて夕刻となり散会。

「ヨイトマケヨイトマケ」《三日目》

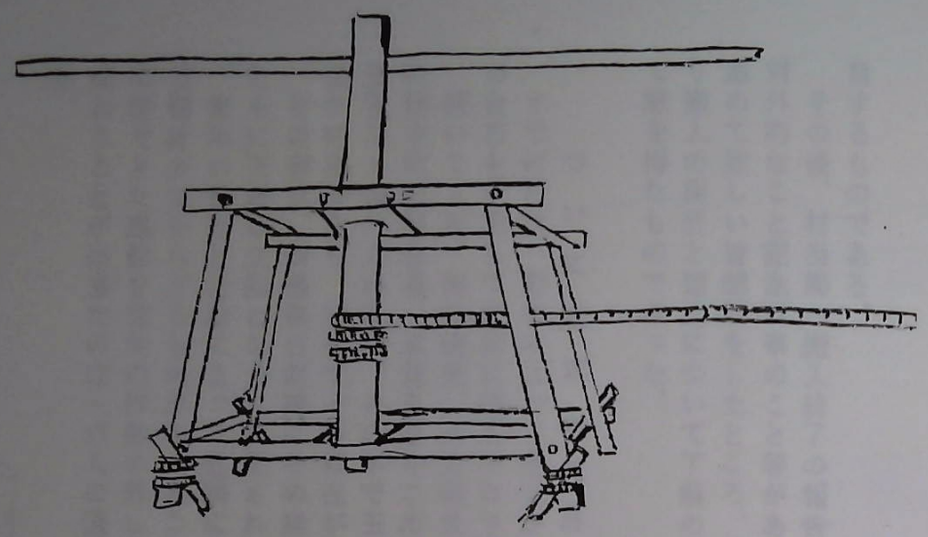
明けて三月一六日、これも吉沢組から借用したカグラサンを使っての移動である。昔ながらの運搬法方で、根気のいる仕事である。杭で固定して両側に一人づつ、登りの場合は二人がついて、「ヨイトマケヨイトマケ」のかけ声よろしく、回ることによっていっぱいに張られたロープが巻かれ、忠魂碑が乗った櫓が並べた丸太の上をきしみながら一寸刻みに動いていく。この日、精一杯頑張って一〇〇メートルそこそこで夕刻となり散会。

空が曇り夕刻より降りだした雪は止む気配もなく、春特有のぼた雪となり、夜一〇時頃にはたちまち三〇センチを超える積雪となる。

この夜、滝原公民館では区民が集まって満員のなか、映画会が開催されていた。予定通りに終了し、全員散会して屋外に出た直後、公民館が大雪の重みに耐えられず倒壊する事故が発生。幸い終了後で一人の死傷者もなく、一大惨事を免れたことを、翌朝搬入現場にて、滝原出身の同志の説明で知ることが出来た。

雪の中を《四日目》

先のチェーンブロック落下の事故また昨夜の滝原公



民館崩壊と背筋の寒くなる事故であったが、人命に関わることがなかったことは不幸中の幸いであった。今後の安全を祈願するとともに十分気をつけて、作業にかかる。

大雪のため搬入路の除雪が必要となり、また行動に何かと制約をされながらも、雪をかく人、丸太を引く人、ロープを巻く人等それぞれ自発的にきびきびと対応する。青年の集団は若さあふれ、心気晴朗なりと自負するものがあったが、夕刻ともなると長靴の中に雪が入ってさすが冷たい。滝原公民館でも後片付けがなされて、多くの人影が終日動いているのが、遠目ながら目に映りそのご苦労のほどが察せられた一日であった。

こうして四日目の作業も予定通り終了し、ほぼ二〇〇メートル程の移動を完了。明日は到着するであろう。

搬入完了《五日目》

三月一七日いよいよ最後の日。直ちに作業開始するも、予定コースを移動するためには、どうしても三本ばかりの松を伐らねばならず、大室神社社有地のため氏子総代（総代長　饗場五郎氏）の了解を得て、これを伐採しつつ順調な作業により、夕刻四時頃には目的とする場所に到着することが出来た。

直ちに借用した多くの機材資材をそれぞれ整備し、返納してすべてが終わった安堵感となる五日間の汗とともに発散。下向きな若き情熱と正義感とにより、初日の失敗を克服。しかも大雪に見舞われながらも、英霊のご加護もあって無事終了することが出来て、一同手を取り合って感無量。さっそく大里農協宿直室でするめと冷酒で乾杯！。盛大な（精神的）慰労会がなされ酔う程に軍歌やナツメロが合唱され、大事業が計画通りに進み終了した悦びをよろこびとしながら、敬謙な気持ちにしたりつつ、大いに青春を謳歌しての一時でもあり、また、青年議会としての快挙として生涯忘れ得ぬ計画であり後世に語り残せる事業であったと自

負するものである。

その後、村当局へ搬入終了の報告と建立については対外的なこと記念行事のこと等があるので、村当局で進めて欲しい旨懇請をしたところ、席上、村長さんより搬入の謝辞と建立について了解の旨のご返事を聞いて意を得たものであった。

ついに建立《九月》

すでに初秋、業者によって建立が進められ、現場での台石を利用して立派に完成がなされた。

続いて下旬、国会議員、県会議員、地方事務所長、近隣市町村関係者、来賓多数のご出席を賜って盛会な慰霊祭が遂行されたが、その中で玉串奉てんで青年議会の呼称があり、初めてその存在が披露された。

その翌日、信濃毎日新聞にその建立の模様が写真とともに子細な文面となって掲載された。

青年の意志と行動によって近隣に先駆けて建立した反響は少なからざるものがあったことを身に感じつつ、実現できた感動を雪中の作業の苦しさも忘れ、心から味わうことが出来たのは一六人の議員と事務局であった。

文責　饗場幸一郎

平和の礎

日清戦役
日露戦役
支那事変
大東亜戦争
没者氏名

日清戦役

土屋桝吉　二十三歳

日露戦役

饗場多重　二十六歳
小林扞衛　二十一歳
荻原由次　二十三歳
櫃山善吉　二十九歳
土屋忠光　三十歳
清水由松　二十三歳
土屋八八郎　二十三歳

小林丙午　二十五歳
花岡登平　二十五歳

第一次世界大戦

富岡豊　二十二歳
平井大吉　二十四歳

支那事変

中屋佐貴太郎　三十歳
小林十郎　十九歳
高橋三喜男　二十五歳
饗場包男　二十七歳

荻原清蔵　三十一歳
中込芳雄　二十四歳
土屋勝武　二十九歳
漆原義男　二十三歳
堀不二夫　二十二歳
田中敏夫　二十二歳

大東亜戦争

中込光信　二十四歳
相場誠　二十三歳
荻原正宜　二十四歳
荻原巻登　二十二歳

土屋好一郎　二十三歳
桑名富善　二十歳
佐藤正之助　二十三歳
斉藤時雄　二十二歳
桑名金寄　二十五歳
中屋庄松　二十三歳
白鳥弘夫　二十七歳
斉藤清重　二十一歳
上原浜雄　三十一歳
佐藤信雄　二十二歳
尾沼正三　三十歳
尾沼要　二十四歳
田中功一　二十三歳
土屋繁夫　三十歳
土屋牧信　二十四歳
土屋頼貞　二十五歳
山浦貢　三十四歳
漆原好文　二十二歳

柳田大六　二十九歳
中野重男　二十八歳
富岡寿次　二十九歳
佐藤長一　二十七歳
土屋正則　三十四歳
荻原栄　二十六歳
橿山金吾　二十二歳
尾沼次男　二十九歳
斉藤家秀　十八歳
依田喜三郎　二十九歳
相場恒　三十五歳
柳沢兵二郎　二十七歳
小林貞吾　三十二歳
漆原一　二十二歳
柳沢伴次郎　三十歳
花岡智　二十五歳
田中穣　二十四歳
荻原健一　二十九歳

平井秀一　二十二歳
関留五郎　二十六歳
小山次治　三十歳
中込正一郎　二十七歳
小林袈裟雄　二十五歳
平川一雄　二十五歳
饗場秀雄　二十七歳
土屋安繁　二十七歳
尾沼宗吉　二十四歳
柳沢勝藏　二十五歳
高橋宗平　三十歳
饗場次郎　二十九歳
依田袈裟善　三十歳
白鳥滝次郎　三十七歳
荻原春雄　二十三歳
土屋清司　二十四歳
高橋辰吉　二十九歳
土屋實太郎　二十九歳

土屋一男　二十三歳
柳沢澄人　二十八歳
佐藤啓次郎　二十八歳
岡村作治　二十三歳
土屋睦　二十二歳
柳沢熊市　三十八歳
依田清人　二十二歳
白鳥健男　三十三歳
小林大六　二十九歳
関八郎　二十三歳
上原登　二十四歳
土屋由藏　二十六歳
田中廣　二十七歳
土屋明　十七歳
土屋源次郎　二十五歳
尾沼喜竹　三十五歳
白鳥恒三　二十一歳
篠原二郎　二十五歳

藤谷良知　二十六歳
相場今朝雄　四十歳
平井徳登　三十五歳
平井善衛　二十六歳
土屋正信　三十一歳
依田巻弘　二十五歳
依田壽次郎　三十三歳
神谷次田郎　二十五歳
白鳥庚　二十六歳
饗場藤吉郎　四十二歳
櫻井泰親　三十歳
柳沢勝　三十六歳
土屋勇四郎　三十五歳
尾沼好徳　二十四歳
杉山尚光　二十六歳
上原昆治　二十五歳
小池正平　三十四歳
尾沼正二　三十四歳

依田義秋　二十五歳
小林酉一　二十五歳
高野文一　二十三歳
土屋保幸　三十六歳
花岡良次　二十五歳
尾沼英靖　二十五歳
饗場毛佐男　三十歳
中込有男　三十七歳
饗場喜典　三十歳
饗場袈裟雄　三十一歳
塩川邦人　二十二歳
白倉義三郎　二十八歳
相場睦　四十六歳
相場正男　三十六歳
岡村幸男　四十二歳
依田とめよ　十八歳
尾沼春康　三十五歳

以上　百三十三名

一、むざんにも路傍に倒れし忠魂碑
見るにしのびず 山上に運ぶ

一、忠魂碑 汗にまみれて雪うなか
建立せんと集ふ青年（わかうど）

一、平和の礎（いしずえ）となりて幾星霜
永久（とわ）につがれて人ぞ忘れじ

一、我が命かえり見ずして戰陣に
露と消えにし若き人々

一、なつかしき故里にあり鎮座する
過ぎ勇士ぞ永久に眠る

一、山頂の慰霊堂にまつられし
百有余の霊ぞ命守し

信濃毎日新聞
昭和28年(1953年)2月11日 (水曜日)

村民も存続を支持

異色放つ大里村青年議会

北佐久大里村青年談会は一昨年発足し現在県下でただ一つの青年による新しい村づくり議会として活発な活動をつづけているが、二十二日議員改選期を前に存続さすべきか否かについて世論調査をしたところとくに村内有識者間に存続さすべしとの強い支持があり、このほどの最終議会でより効果的な研究活動を続けることを申合わせた。

発足いらい同議会の村政にプラスしたことは少なくないが同村の国立療養所菱野分院が同村上流にあって衛生上の問題から村民間にしばしば非難が起り小諸町本院に移転さすべしとの声がつよく、これをとり上げて村議会に提案採決されたこと、政党立会演説会の開催建設箱の設置、農事研究会や4H クラブの研究補助費の獲得、忠魂碑、忠霊塔の建立など数多く、村会に負けない熱心な村政研究機関として愛されている。

同議会の基本となる選挙規約は公職選挙法に準じてつくられその全二十三項目は有権者、被選挙者ともに二十歳から三十歳までの同村在住青年で議員数十六名、立候補者は有権者の三一五人の推薦を要するなどを決めた異色あるもの。

あとがき

昭和五二年頃だったと思いますが、例年開催される遺族会主催の慰霊祭にご案内によって参列をさせていただいた折り、終戦間もない頃取り壊され路傍に放置された忠魂碑を青年議会として金平山山頂に搬送、村当局をして再建せしめた一端を報告旁々お話申し上げたところ、大きな反響があり、その後、年毎の例祭の席上話題となり、さらに詳しく知るため、また伝えるため記述して欲しい旨遺族会の皆さんから強い要望がありました。しかし、長い年月の経過と資料不足もあって、以後今日まで約束が履行できず大きな心の負担となっておりましたが、同志とともに検討しつつ実現したい一心に駆られて、準備と資料の探求に専念して参りました。幸い、関連記事が当時の大里村公民館報に掲載されており、その尊い記事をもとに想起してまとめることが出来ました。

四〇余年前のことですが、雪中作業のことなど昨日のように鮮明に思い出されましたが、それらを表現する文言等に不十分の点多々ありますが、よろしく御判読ください。

終戦間もない時期にただただ戦没者を偲び御遺族を想う一念から、その行動と団結をもって、占領軍に気兼ねする事なく難事業を短期間に完成したことは若さであり、青年であったからだと思います。

その青年も今は白髪の老人となり、すでに多くの物故者を数えております。この同志の皆さんのご冥福をお祈りしつつ御霊前にご報告申し上げます。

その後、金平山頂に慰霊堂（奉安殿改築）さらには平和の礎が建立され、日清、日露、大東亜戦争の英霊百二十余柱が永眠され、今日日本の平和の基となっておられますことについて、心から黙禱を捧げます。

我々はこの尊い犠牲を永遠に忘却してはなりませんし後世に伝える義務があります。そしてその事は世界平和に通じる道であると信じます。

終わりにあたり、今回貴重な資料を提供していただきました相場高雄様、花岡一登様、荻原末秋様お三人に心から、感謝と御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

ここに遺族会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念して筆をおきます。

平成五年六月十五日

饗場幸一郎